

2022 年度 苓 龍 苑 事業報告書

全般について

【生活介護・施設入所支援・短期入所】

2022 年度もコロナ禍の中、法人の基本理念「尊厳」「自立」「共生」の実現に向け努力

してまいりました。しかし、12 月に新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し 例年とは違う新年を迎えたり、2021 年度以上に利用者及び職員共に大変な時期を多くの制限が掛かる中一緒に頑張っていました。ご家族に対しては、施設でクラスター発生時と、収束時に文書にてお知らせしました。また、コロナ陽性者となられた利用者のご家族には、安心感を持ってもらえるよう、毎日の健康面の状態報告を電話にて行いました。

2022 年度に発生し、今後も絶対忘れてはならない事として、6 月と 12 月に虐待認定及び県から勧告を受けたことが挙げられます。「放棄・放置」については当該利用者の状況を職員全体で、情報共有出来ていなかったことも原因のひとつに挙げられるのではと感じています。今後は利用者の変化等の情報共有に努め必要に応じて早めにケース会議等を行う、主治医やご家族等にも報告・連絡・相談する等行いながら利用者支援に努めます。

「身体的虐待」においては、骨折の原因は不明でありましたが、虐待ではなく、日常生活の中で起こった事故（骨折）という思いが強く、虐待通報するという認識がなかったことが反省するところです。2 件の虐待認定されたことを、教訓と捉え、『見直そう「ことば」「対応」「その支援」～自分が変われば施設が変わる～』を 2023 年度のスローガンに掲げ、不適切な対応「小さな芽」のうちに摘みとれるよう、利用者及び職員一丸となって虐待防止に努めて参ります。

サービス提供においては、利用者個々の特性に応じた個別支援計画書に基づき、笑顔と思いやりの心で、医療・介護・訓練・生活・食事提供支援等の充実を図ると共に丁寧な対応を心がけ実施しました。ICT 機器「インカム」については、2022 年度のクラスターを経験した中で、様々な場面において連絡するツールとして無くてはならないものだ実感しました。今後も職員の業務省力化を図る為に、必要な記録が簡単に出来るような ICT 機器等の検討を進めて参ります。

2022 年度（令和 4 年度）の新規入所者 5 名、退所者 5 名であり、2022 年度末現在で 35 名（男性 27 名、女性 8 名）の方が利用されました。退所理由で、区分 6 の方が苓龍苑の対象ではなく重度心身障害者施設へ移行、また、死亡退所された利用者の方も区分 6 だった為、平均障害支援区分では前年の 5.6 から 5.5 と若干の変動がありました。

地域からの生活介護利用や短期入所利用においてはニーズに応じた必要な支援を行いました。生活介護は 2 名、その内 1 名の方は交通事故にあわれ精神面で不安定、また、機能低下となり 2 月に施設入所されました。短期入所については 3 名の方が利用されました。